

3年 風間 あり彩 さん
北海道 札幌啓成高校卒

実力派ST(言語聴覚士)めざして「大学で学びたい」と本学に入学。1年次「解剖生理学」、プタの喉の解剖でモチベーションをさらに上げ、大学で学ぶ醍醐味を満喫中。予習復習は欠かせません。



臨床実習や国家試験に直結する知識や技術、毎回覚えることがいっぱい、集中力は全開です。

脳を損傷すると何が起る？

「高次脳機能障害」とは、交通事故や脳卒中で脳が損傷を受けることによって生じる様々な障害のことです。記憶力が落ちる、根気が続かない、判断力が低下するなど損傷の場所により多様な症状が出ます。モノとその名前が結びつかなくなる失語症もその一つです。

この授業では、脳の損傷で起こる認知、行為、記憶、注意、知能などの障害の発現メカニズムや経過、症状を理解し、臨床でメジャーな検査を演習します。たくさんある症状、検査法を覚える大変さがありますが、人間の脳が驚くほど複雑な働きで人間らしい「心」をつかさどっていることが見えてくる授業の一つです。



授業の前半で検査の概要と実施上の注意点を頭に入れます。田村至准教授のデモンストレーションVTRを見ることもあります。

臨床実習、国家試験も意識して。

検査は学生がペアを組み、ST役は白衣着用で実施します。実は白衣も大切な小道具の一つ。患者さんに白衣姿を前にする緊張感をもってもらい最大の能力を引き出すためなのです。

今日演習するのは面接形式の簡易知能検査5つ。就職後はもちろん、4年次の臨床実習で使うことが多く、国家試験にもよく出ると聞けばがぜん集中力も高まります。

動物の名前といったカテゴリ内、または「あ」から始まるなど条件に合う単語を1分間でいくつ言えるかカウントする「語想起課題」、母音を拾う「仮名拾いテスト」の他、言葉を使わない検査



FABでは利き手、または麻痺のないほうの手で刀→拳→掌を作るテストもします。奥の学生は提示されたカードと同じ図形をブロックで作る検査「コース立方体組み合わせ検査」をしています。

も演習します。

FAB(Frontal Assessment Battery)は、STが鉛筆の背で机を1回たたいたら患者さんは2回、STが2回の際は1回というルールでたたいてもらいます。次にSTが1回の際は1回、STが2回の際は0回(たたかない)のルールで実施します。どちらも前頭葉の機能を見る検査ですが、後者はとくに行動を抑制する部分を見ます。問題があり抑制がきかないと、STが2回たたくと自分もたたかすにはいられないのです。

FABはフランスで開発された検査ですが、演習担当の田村至先生はその開発グループに留学先で会ったそうです。国際レベルの言語聴覚学の先端が近い!嬉しい気分になります。

学生同士でも、あります、緊張感。

さて皆さん、「患者役は学生だから、検査は難なくクリアできて、あまり勉強にならないのでは?」なんて思っていないですか。いえいえ、毎回難しさに直面します。とくに検査の説明。正しい結果を得るために過不足なく伝えるということは、思っているほど簡単ではありません。手順も最



無意味なつづり、物語、それぞれから母音を拾う「仮名拾いテスト」。物語では仮名を拾いながら内容も把握します。なお、すべての検査で、解答は患者さんの要望があっても教えません。同じ検査を再度受ける可能性もあるからです。

初からスムーズというわけにはいかず、いまはマニュアルと首つ引き、情けないほどごちないです。でも、4年次を迎えるまでには少しは自信をもてるようになりたい。だからやっぱり、復習あるのみです。



患者役も意外に緊張するもので、患者さんの気持ちに一步近づけた気がしません。ST役はマイストップウォッチでタイムを計りながら正確に記録し、患者さんの様子も見ます。すべてを同時にできるようになるには、まだまだ修業が必要です。

担当教員より

高次脳機能障害領域での言語聴覚士の活躍を期待します

● 田村 至 准教授

「高次脳機能障害学」は、言語聴覚士が臨床現場でかかわる機会が多い大脳の損傷によって生じる認知障害(失認)、行為障害(失行)、記憶障害、注意障害、認知症について、それぞれの原因疾患、症状、リハビリテーションを学ぶ科目です。特に記憶障害や注意障害を伴う認知症は、これからの高齢化社会において言語聴覚士が早期診断の要となる高次脳機能検査のみならずリハビリテーションを行う領域として重要です。この授業では、講義を聴いて知識を得るだけでなく、記憶や注意などの高次脳機能検査を学生同士で実際に施行することで、検査の施行技術の洗練、個々の大脳機能の理解、さらに対人的コミュニケーション能力の向上を目指しています。高次脳機能をさまざまな角度から検査する経験を通して脳の持つ驚異的能力を実感すると同時に障害を受けた患者さんの「こころ」も洞察できる力を学んでほしいと考えています。